

中越大震災から20年「選ばれるまち長岡」へ

1. はじめに

長岡市は、平成16年に発生した新潟県中越地震の災禍から20年を迎えました。

当時を振り返ると、国・県・全国の自治体から多くの人的・物的支援によって、復旧・復興を強力に進めていただいたことは、20年を経過した今もなお、強く心に残っています。多くの皆様のご厚情に感謝申し上げますとともに、全国で頻発化する災害にしっかり生かされるよう、震災の教訓、防災や減災の取組を大きく発信し、今後も地域社会の安全性の向上に努めてまいります。

2. 山古志地域の中山間地復興モデル

平成16年10月23日に発生した新潟県中越地震で壊滅的な被害を受け、全村民が避難を余儀なくされた山古志地域（当時：山古志村）は、国の強力な支援もあって道路等のインフラが早期に復旧され、3年後には帰村することができました。残念ながらその後の人口減少の流れは止められず、地震前に2,200人であった人口は、現在700人ほどに減少しましたが、今も闘牛（牛の角突き）や錦鯉の生産など、豊かな伝統文化を継承しつつ、震災を通じて広げた交流も生かしながら地域を守る様々な努力が続けられています。中でも、地域の市民団体がNFTの仕組みを活用して、電子住民票を兼ねたデジタルアートを購入した人を「デジタル村民」に認定し、デジタル住民とリアル住民とが融合する新たな形の地域コミュニティづくりの取組は、国内外から注目を浴びています。

同様の課題を抱える全国の中山間地域や被災地などに希望を与える事例になっていくものと期待しています。



電子住民票（NFTアート）

3. 災害を経て、地方分散の受け皿に

本市は、首都圏とを繋ぐ関越自動車道と、日本海に沿って伸びる北陸自動車道との分岐点に位置しています。中越地震発災直後、首都圏との交通が寸断されましたが、日本海側にネットワークの冗長性があったおかげで、避難者支援や復旧活動への影響を最小限に抑えることができました。東日本大震災の頃から災害時のリスク分散や太平洋側のバックアップ機能として、日本海側の交通軸の重要性が言われるようになり、同様に企業活動における機能分散の考え方も変化していると感じています。災害に強い本市の優位性を産業政策に生かしながら、拠点性を更に高め、地方分散の受け皿となることを目指したいと考えています。



北陸自動車道に直結する長岡北スマート流通産業団地



長岡市長 **いそ だ たつ のぶ**
磯 田 達 伸

一例として、高速道路網の分岐点に位置する長岡北スマートICに直結する産業団地を整備したところ、引き合いが多数寄せられ、完売しました。こうした好調な状況は、新たな産業団地誘致の事業展開へと広がっています。

4. 都市としての拠点性を高め、選ばれるまちへ

首都圏から上越新幹線で最短90分で繋ぐ、JR長岡駅前中心市街地地区では、全国初の「イノベーション地区」の創設を目指し、令和4年3月に、内閣府地方創生推進事務局と東京大学連携研究機構不動産イノベーション研究センター（CREI）と本市で研究連携協力協定を締結しました。

その核となる人材育成と産業振興、イノベーションの拠点「米百俵プレイス ミライエ長岡」の西館が令和5年7月にオープンしました。新しいスタイルの図書館（互尊文庫）やインキュベーション施設（NaDeC BASE）をはじめ、スタートアップ、ベンチャー企業や産業技術総合研究所等も入居するなど、様々な企業人、起業家や研究者が活動しており、オープン1年目で来場者は38万人を超えました。また、長岡には4つの大学と1つの高専があり、工学、デザイン、経済・経営、看護と幅広い分野の人材に加え、留学生を含め、数多くのテクノロジー人材が長岡に集まり、新たな人材も育っています。

東京一極集中により人口減少が加速する中、これからの地方創生は、拠点都市に集中投資していく「拠点ネットワーク型」になると考えております。

長岡市は中越圏域の拠点都市として、医療・福祉・教育・子育て環境の更なる充実を図るとともに、イノベーションによる産業振興により、人の

流れや企業の拠点分散の受け皿となることで、「選ばれるまち長岡」を実現してまいります。



米百俵プレイス ミライエ長岡による人材交流

5. おわりに

中越地震発生から20年目を迎えた令和6年の元日に能登半島地震が発生しました。長岡市域海岸部の寺泊地域では津波警報が発令され、多くの方が高台に避難する事態となり、日本海側における津波リスクの増大によって、更に防災意識を高めた行政運営が求められています。震災からの復興は誇りであり、得られた教訓は共有の財産です。このことを心に刻み、防災・減災の取組を全国に発信してまいります。

20年を経て、ますます予測が難しい時代へと変化しています。長岡は、戊辰戦争、第二次世界大戦（長岡空襲）と幾多の災禍から立ち上がり、市民の力を結集して発展してきました。長岡には「まちづくりは人づくり」という「米百俵の精神」が息づいています。あらゆる困難にもオール長岡で一致団結し、明るい未来を創ってまいります。